様式2　　平成30年度　清瀬市立清瀬中学校　　学校評価表

学校教育目標

人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、・正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒を育てる　・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる　・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　○生徒にとって楽しく行きがいのある学校　○保護者にとって親しみがあり、地域に根ざした学校　○教職員にとって自己研鑽に励み、協力して進める学校

【目指す児童・生徒像】　○正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒　○健やかな身体と豊かな情操をもった生徒　○高い知性とたくましい創造力をもった生徒

【目指す教師像】　○常に生徒のことを第一に考える教師　○生徒のためという同一の視点に立って協力し、体罰を許さぬ教師　○自己研鑽に励み授業改善に取り組む教師

育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動

本校の教育目標に基づき、中学校教育を通じて中学校卒業段階における社会人基礎力の育成を目指すという視点から、育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「考え抜く力」（「社会人基礎力」、経済産業省）とし、あらゆる教育活動を通じて育成を図る。

また、インクルーシブ教育の推進を本校の特色ある教育をし、各教科の授業や学校行事、給食、部活動などにおける、特別支援学級と通常学級の生徒との交流及び共同学習を中心的な内容とする。そのために通常学級と特別支援学級の合同学年会を行うとともに、体育行事及び文化行事の各委員会において交流及び共同学習を企画し運営する。

前年度までの学校経営上の成果と課題

インクルーシブ教育の推進に重点を置いて学校の運営を行っている。特別支援学級と通常学級との交流・共同学習については、インクルーシブ教育推進委員会や特別支援教育コーディネーターが中心となって推進している。当初は集団になかなか馴染めなかった生徒も、取り組みを進めるうちに交流するようになってきている。今後は、インクルーシブ教育についての教員の理解を深め、より一層連携を密にしていくことが課題である。

柱	具体的方策	自己評価 評価 取組指標	自己評価 評価 成果指標	自己評価 課題と次年度以降の対策	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント
確かな学力の向上	・各教科等で生徒の自己有用感の育成に係る指導場面を意図的に設定し、生徒の主体的で対話的な学習活動を促し、学びを深める。	4	3	授業の中で、主体的・対話的・深い学びのどの場面かを記入する本校独自の学習指導案を活用した。その結果100%の教員が指導場面を意図的に設定できたと回答した。また中堅教諭研修Ｉを受講している教諭が、模範となる学習指導案をつくりあげた。これをもとに研究授業を行うとさらに意図的に主体的・対話的・深い学びの指導場面が設定できる。	4	生徒が、授業の中で主体的・対話的・深い学びができるために、先生方がよく研修をしていることがわかります。継続して推進をしてほしい。
	・清瀬市学力観に基づき、論理的な思考力、基礎的・基本的な力、社会と関わる力、及びそれらを相互に関連付けた力を育成する。	4	3	授業の中で、対話的な場面で、論理的に説明する力を付けさせ、相手を納得させる説明をさせた。同時に基礎的・基本的な学びを修得させ、教科の良さを生かした対話ができた。さらに相互に関連付けた力を育成するためには、教科の横断的な学習活動を実践していく。	4	引き続き、学習活動において論理的な思考力、基礎的・基本的な力、社会と関わる力、及びそれらを相互に関連付けた力を育成しいほしい。
豊かな心の育成	・第1学年で介護体験講話、救急救命講習、第2学年で国立ハンセン病資料館見学、第3学年で赤ちゃんのチカラPJを「命と人権教育」として実施する。	4	4	介護体験講話、救急救命講習、国立ハンセン病資料館の方の講演会、赤ちゃんのチカラプロジェクトを通して命の教育と人権教育に取り組んだ。また本年度、認知症サポーター養成講座も実施することができた。今後も継続して取り組み、生徒の社会性、人間関係能力の育成に取り組む。	4	命の教育については、現在扱っていかなければならない大切なものである。保護者にも積極的な参加を促していき、社会全体で共有すべきである。
	・体験学習のねらいを「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」の育成に置き、生徒の主体性を育てる。	4	4	育成を目指す資質・能力を明確にしたことで、体験的な学習において教員の生徒へのねらいと指導が一本化された。校外学習や修学旅行そして職場体験の事後学習において、生徒の作文の中に3つの力についての記述がほとんどの生徒にあった。今後も継続して取り組み、生徒の主体性を育む取組を行う。	4	生徒がねらいについて作文に記述するということは、ねらいが達成されたということである。教員側の説明が統一されており、生徒も一丸となって体験できている。
健やかな体の育成	・外部講師や外部指導員による講演や実技指導の機会を設ける。	4	3	オリンピック・パラリンピック教育で、おもてなし講座やライフセーバーの方のお話を聞くことができた。またJICAやユニセフ、国際理解支援協会をまねき、国際理解教育を推進することができた。生徒のアンケートでは、満足しているとした回答が87%と高い。次年度も機会を増やしていく。	4	たくさんの外部講師、外部指導員を学校に取り入れ、生徒の満足度が高い。このような素晴らしい取組を、地域の方や保護者にも、案内をしてほしい。
	・セーフティ教室や薬物乱用防止教室を外部講師の招へいや生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	4	3	セーフティ教室では、KDDIの方に来校して頂き「SNSについて」の講演会を行った。生徒たちが主体的にSNSのトラブルや恐ろしさそして使い方について専門的な知識を学び学習を深めた。	4	セーフティ教室は、保護者も知らないことがある。保護者もたくさんの専門的な知識等を学びたいと考えており、地域の方や保護者にも、案内をしてほしい。
本校の特色①	・外部機関との連携を深め、生徒や保護者を公的な支援から孤立しないようにする。	4	4	SC、SSW、子ども家庭支援センター、教育相談室、小平児童相談所、民生児童委員、主任児童委員、青少協、健全育成委員との連携を定期的にとり、困り感のある生徒・保護者を支援へとつなげることができた。	4	困り感のある生徒・保護者を孤立させないことは、生徒の安全の確認になる。今後も外部機関と連携し、生徒の困り感を少なくしてゆく取組を継続する。
	インクルーシブ教育の一環として、各教科及び行事、部活動等、様々な場面を利用して交流及び共同学習を行う。	4	3	４月当初から、特別支援学級の生徒は交流クラスを決めている。教科は幅を広げ、どの教科でも受けられるようになった。このことにより特別支援学級から通常学級へ転級した生徒も出ている。運動会や音楽祭にも参加し交流・共同学習ができている。	4	様々な生徒に対して、個に応じた支援が出来ている。清瀬中学校は、清瀬市に一つしかない特別支援学級設置校であり、引き続き推進してほしい。
本校の特色②	・学校行事や体験学習における保護者との協働を推進する。	4	1	毎年、運動会や音楽祭、公開授業では協働の場面があった。本年度は職場体験での巡回、夏季休業中にアフリカの先生が本校に来校した際、折り鶴のつくり方を教え、団扇をお土産として渡すなどの対応をして頂いた。今後は、道徳授業地区公開講座の講師選定依頼をしたいと考えている。	3	各行事、取組で保護者・地域の方の参画や協働は定着している。成果指標について、保護者アンケートでは69%の保護者の方が協働に肯定的な回答をし、評価規準は70%以下を「1」としているとのこと。評価規準の再検討をしてもよいのではないか。3分の2以上の協働は評価できる。
	・PTAが参画した行事を企画実施するとともに、学校支援地域本部創設の気運を高める。	4	4	各種行事で、PTAが参画した行事を企画実施することは、以前より定着している。また学校支援本部は次年度より設置されることとなった。本校の保護者以外でも、本校との協働ができることが、学校そして地域の活性化になることを示していく。	4	これまでの取組を維持し、少しずつでも取組を増やしていってほしい。また青少協等とも協力体制をより確実なものにしていってほしい。